科目別学修成績にかかるIR（2021年度 ～ 2023年度）

IR推進室

明治国際医療大学で行われている学部教育について、教育効果、成績評価の状況を可視化するIRを毎年継続している。科目別の学修成績を用いた自己点検を行う機会としている。

＜IRの方法と内部基準＞

可視化の対象となる科目は、2021年度から2023年度に開講した各学科の必修科目である。データの採取時期は、３月末もしくは４月以降のものとし、各年度の成績が確定したデータを用いた。

検証にあたり、開講された科目ごとの学修成績（科目別GPA）を算出した。教育に対して責任を持つ学科において科目担当者やカリキュラム等を調整する基礎資料となることから、各学科の会議で点検・共有することとした。同時に、科目別GPAを科目担当者に報告し、相対的に自身の科目の状況を捉え、自己点検を介したフィードバックが行われることを期待した。

教育改善の方向性は、３要素で構成されている。第１に円滑な学びを保証する「成績評価の平準化」、第２に成績評価における十分な「安定性の確保」、第３に優秀な学生とそうでない学生を区分する「分別性の向上」である。それぞれ指標を設定し、教授会や各学科の会議における教育改善の判断材料の１つとして活用している（表１）。なお、基準１から基準３については、状況に応じて、適宜、見直しを行っている。

基準１	未修得者数が履修者の10%を超える科目
基準２	科目別GPAが2.5以下の科目 （2023年度入学生は1.8以下）
基準３	科目内において特定の評価の占有率が<u>一定の割合を超える</u>科目 （2021年度は85%、2022年度以降は75%）

表１　科目別GPAにおける注意を要する科目の判定基準

なお、2023年度入学生より評価グレードを見直した。「秀」を新設したうえでGP基準を改定し、表２のように改めた。変更の結果、学科によるバラツキがあるものの、前年比でGPAは0.6～0.9の減少となった。これに伴い、2023年度入学生を対象とした科目については、基準２の判定水準を下方に変更している。

	秀	優	良	可	可―
2023 年度入学生	4	3	2	1	
2022 年度以前の入学生		4	3	2	1

表２　2023 年度入学生のレターグレードと GP 基準の変化

＜結果＞

図１に各年度の科目別 GPA の分布を箱ヒゲ図で示す。

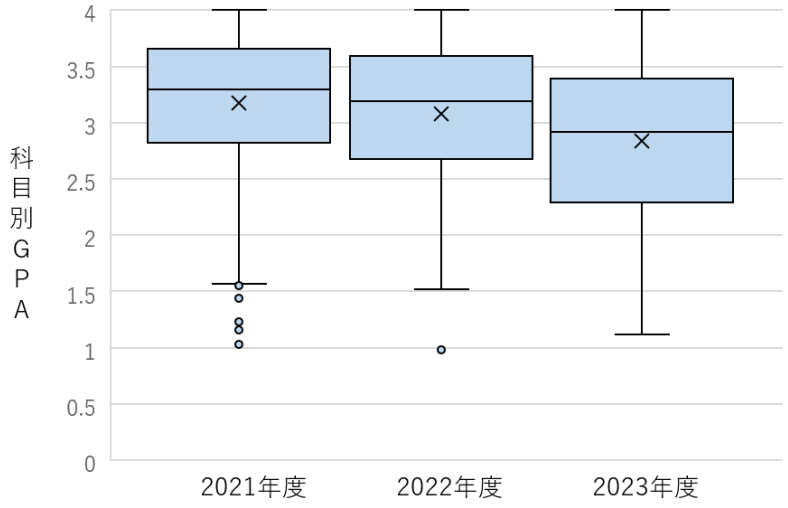

図１　2021年度から2023年度の科目別GPAの箱ヒゲ図

2021 年度および 2022 年度は科目別 GPA の中央値は 3 を超え、高値を示した。一方、2023 年度の中央値は 3 を下回り、2022 年度と比べて約 0.3 減少した。原因は、主に 2023 年度入学生の GP 基準が変更されたためである。2020 年度～2022 年度の入学生と比較し、この学年の GPA は 0.6～0.9 の減少となった。ただし、GP 基準の変更に伴う GPA への影響については、事前のシミュレーションで 0.7～0.8 の減少を見積もっており、想定の範囲内の変化と解釈している。

2023 年度入学生より GP 基準を変更した大きな目的の一つに、成績分別性の向上がある。より高い水準まで学修した者が高評価となり、「秀」や「優」の水準に至らなかった者が相応の評価を受けるという評価体系は、成績評価の分別性を高めることで実現されるものであり、大学教育の基盤をなすものでもある。この観点で図１の箱ヒゲ図を見ると、2021 年度および 2022 年度の四分位範囲（箱で表現されている部分で、75%値から 25%値までの範囲を示す）は小さく、成績における良好な分別が行われていない。GP 基準を変更した 2023 年度では、四分位範囲が拡大し、成績評価の分別性が大きく向上したと判断できる。

	2021 年度	2022 年度	2023 年度
基準 1	21	21	11
基準 2	46	64	53
基準 3	50	66	50
対象科目数	317	319	328

表３　各基準に該当した科目数

表３に、各年度において表１で示した３つの基準に該当した科目数を示す。2023 年度は科目別 GPA を算出してから 4 年目にあたる。4 年間で学科および教員間において科目別 GPA の存在が意識され、成績評価に客観性と公平性が備わり始めた。その結果、年度によるバラツキはあるものの、基準１から基準３に該当する科目数は減少傾向にある。

基準１は、未修得者数が履修者の 10%を超える科目である。未修得科目の増加は留年・退学等の学籍異動に直結することから、学科および科目担当者が最も注目する指標となっている。表３には示していないが、この評価を始めた 2020 年度において基準１に該当した科目は 9.2%（284 科目中 26 科目）であったのに対し、2023 年度では 3.4%（328 科目中 11 科目）に改善した。データ可視化（IR）と自己点検（学科および科目担当者によるフィードバック）が適切に機能したものと捉えている。

基準２は、科目別 GPA が 2.5 以下の科目（2023 年度入学生は 1.8 以下）である。この部分は年度によるバラツキが大きい。要因として、年々、学生の基礎学力が低下する傾向があること、学科・学年ごとに学修時間や意欲に差があること、新しいカリキュラムが開始された学年では成績評価の調整に困難を伴うことの３点があげられる。特に新カリキュラムの影響は大きく、基準２に該当した科目は新カリキュラムが実施される学年に集中した。

基準３は、科目内において特定の評価の占有率が一定の割合を超える科目（2021 年度は 85%、2022 年度以降は 75%）である。この基準は成績評価の分別性を向上させる目的で設定され、2022 年度に判定基準を厳格化した。その結果、基準 3 に該当した科目数は、2021 年度 15.8%（284 科目中 26 科目）から、2022 年度 20.7%（319 科目中 66 科目）に増加した。ただし 2023 年度は 15.2%（328 科目中 50 科目）と 2021 年度並みの水準に改善している。この改善は、学科および科目担当者によるフィードバックによるものと判断している。一方、分別性の観点から見れば、一つの科目において単一の評価が 75%以上を占有するは好ましくない。今後は、75%という基準のさらなる引き下げを検討したい。2023 年度入学生より実施している GP 基準の変更と合わせ、今後も成績評価の分別性の向上に注力する。

2024 年度以降についても IR を継続・発展させ、成績評価の平準化、安定性の確保、成績評価の分別性等について、さらなる向上を図りたい。